

# みくに



ヤギのレモンは1才になりました

社会福祉法人 みくに園  
障害者支援施設 みくに成人寮  
TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920  
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902-1  
HP: <http://www. teshimamikunien. com>

わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。

(ローマの信徒への手紙 15章1節)

## 「次の世代へ引き継ぐ者として」

理事長 高田安司

「平成」の時代が終わりを告げて「令和」の時代が幕開けを告げる。

令和の意味は、日本最古の歌集「万葉集」巻5、梅花の歌32首の序文にある「初春の令月にして、氣淑(よ)く風和らぎ、梅は鏡前の粉を披(ひら)き、蘭は珮後(はいご)の香を薰らす」(書き下し文)から二文字をとって命名されました。

春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいとの願いを込めています。

みくに園も今年で34年目を迎えます。これもひとえに皆様方の御支援の賜物であります。

みくに園の歴史について、あまり述べる機会がないので紹介させていただきます。みくに園の前身は保育所で、豊島の人口が一番多いときは約4,000人いましたが人口の過疎化に伴い昭和59年に保育所を閉鎖しました。そして当時は香川県に知的障害者(当時は精神障害者)の施設が数少なく、閉鎖した保育所を知的障害者の施設に転用してくれないかと香川県から要請があり、昭和60年4月に開所になりました。

当時の福祉の制度では理事長自らの資産を投じないと福祉が始まられませんでした。定員は30名から始まり平成2年に50名に、平成15年には72名までになりました。建物も重度棟・高齢者棟・一般棟をそれぞれ建築しております。その間平成2年と4年にグループホーム(定員8名)2棟も運用開始をしました。

それから利用者の高齢化・重度化に伴いまして、外出するにはフェリーでは時間がかかり移動に不便だということで、みくに園の専用船も平成15年に一隻目を、そして平成24年に二隻目を建造しました。

今申し上げたことはすべて故高田久理事長が整えて下さいました。すべて、みくに園の宝であります。まさしく昭和から平成の34年の歳月の間、強いリーダーシップのもとに法人運営・経営がなされてきました。

また施設を始めたことで利用者との出会い・職員との出会い・そして保護者の方々との出会いもありました。

時代は平成から令和と変わり、今後福祉の制度はどう変わっていくかわかりませんが理事長を受け継ぐ者として施設を益々充実し発展していくように職員一同頑張ってまいりますので、今後とも御支援して頂けますように、よろしくお願ひいたします。

## 避難訓練を行いました

過日、秋晴れの下、みくに園では大規模な津波を想定した避難訓練を行った。迅速に皆を集め、歩行に支障のある利用者を車で搬送、事前に用意されている各利用者の薬が詰まった袋も忘れずに運ぶ。警報から15分後には職員を含む1番館利用者の全てが、高台にある職員寮の前に退避できていた。利用者と職員がチームワークを発揮し、良い成果をあげられたのではないかと思う。

他業種から転じてきたばかりの私にとっては、他者の命を預かる前提で臨む避難訓練は初めてのことであり、大変いい経験となった。訓練後は大きな問題もなく訓練を終えられたことへの安堵と共に、数年前までは東日本で過ごしてきた者として、やはり2011年の大震災を思い出さずにはいられなかった。

当時私は神奈川県で震度5強の揺れを体感し、その1ヶ月後には三陸地方を訪れ、大津波に晒された地で視察とボランティア活動を経験している。東京で都市計画に携わる友人や釜石で出会った市役所職員らとの意見交換なども行った。そこで得た知見の一例だが、暴力的な大津波は川を遡上し橋を破壊する。みくに園の脇を流れる小川とて例外ではなく、仮の歩行橋などは直ぐに渡されることもあるが車両で家浦の街地へ入ることには制限がかかることを想定しなければならない。具体例の列挙は控えるものの、肝要なのは「津波から逃げる」訓練を愚直に繰り返すことと同時に、どう「津波の後を皆で生き続ける」かを各職員がよく想定しておくことだろう。

先述した意見交換の場では、事前の避難想定プランなどが想定外の規模だったことや当事者たちの混乱によってうまく機能しなかった話をよく聞かされた。仮に当地で大津波が発生した場合も同様のケースはまず起こる。それを念頭に、その時に試されるのが各自の現場対応力であり、その力を養うのは日頃から想像の幅を広げておく習慣だという教訓を、緊張感の伴う避難訓練の場が思い出させてくれた。

(小澤 記)



【写真左】消防立ち会いによる消火訓練

【写真下】地震による津波を想定した避難訓練





## <諦めないPart117> 作る楽しみ

お彼岸が近づいたある日、3番館の利用者から「おはぎが食べたい」とリクエストがあった。「私はきな粉が好き」「私は青のりがいい」などの声を聞き、それならば自分達でおはぎを作ろう!ということに決まった。

待ちに待った、おはぎ作りの日。朝から食堂にはもち米の炊きあがるいい匂いが広がる。熱々のお米を職員が急いで丸めると、SさんとMさんが、手際よくおはぎにきな粉や青のりをまぶしていく。「昔は家でたくさん作ったわ」などと昔話に花を咲かせながら、あっという間に60個のおはぎが完成了。

「いただきます」の声と共に、みんな笑顔でおはぎを頬張っていた。「美味しいわあ」「おかわり」の声が飛び交い、あっという間に食べ終わっていた。自分たちで作ったおはぎの味は格別だったに違いない。

みんなが食べる姿を見ながら、次は何を作ろうかなと考えていた。これからも利用者の「作る楽しみ」や「食べる楽しみ」を大切にしていきたい。

(古川 記)



## <諦めないPart118> 得意を広げる

自閉症のMさんは帰省した際に家の手伝いをよくしているということを保護者から聞いた。それを活かした支援は何かないのでしょうかと、職員達で話し合い、普段の洗濯干しをMさんに担当してもらうことにした。朝洗濯物を干し、夕方にその洗濯物を取り込む。

作業を分かりやすくするために2色のカゴを準備した。それぞれのカゴには「干す」「取り込む」ことを絵と文字で表示した。そうすることでカゴを見ただけで何を行うのか一目で理解できるようになった。

Mさんはカゴを見た瞬間に笑顔で駆け寄ってくる。そして洗濯場で慎重に洗濯物を干す。また最近では取り込んだ洗濯物を丁寧に畳むこともできる。

Mさんには日々の生活の中に役割を持つことで、みんな園の生活をより充実させてほしいと願っている。

Mさん毎日ありがとうございます。  
(水野 記)



# ギャラリーみくに

## ～公民館まつり～

毎週月曜日と火曜日に行われているアート活動で、利用者さんが制作した作品を紹介します。

少し時間が経ってしまいましたが、昨年の10月末に豊島公民館で、毎年恒例の『公民館まつり』が開催されました。地域の文化祭のようなもので、音楽や演劇、露店などの催しで賑わいます。みくに園のアート活動は、展示部門で参加してきました。

一昨年は3名の作品を出品したのですが、今回は総勢11名となりました。刺しゅうが得意な三枝さんに出品作品とは別で制作依頼をした布看板を掲げ、壁一面を多様な作品でカラフルに楽しく展示することができました。

豊島島民の方々からも「真似できない色使いだね」、「捉え方が面白い」などの感想をいただき、「また来年も見たい」という声もありました。普段は黙々と各自の制作に取り組んでいるアート活動のメンバーですが、このように人に見せる機会は良い刺激になるようです。何人かは展示会場に足を運ぶことができ、作品鑑賞を楽しむことができました。

今年に入ってからも、アート活動の時間中に「今年も（作品を）出したい！」など、前向きなメンバーのコメントが聞こえてきています。秋に向けて、毎週の制作を楽しんでいきたいです。



今アトリエには繁さんの折り紙作品が飾られています。  
吊り下げているひもは樋口さんが編んだもの。  
「みくにえんのアート活動」の看板は三枝さん作。

新スタッフと2番館のメンバー →

さて、2016年からみくに園のアート活動にスタッフとして参加してきましたが、この4月から新しいスタッフに担当をバトンタッチしました。

利用者がそれぞれ自分のやり方で手を動かしながら過ごしている時間がとても気持ちよく、見ているだけで私自身の世界も大きく広がりました。

これからもアート活動の時間が豊かに続きますように！  
(小坂 記)



## 春のお花見会



4月14日に土庄町社会福祉協議会豊島分会主催で、芝桜みくに公園の第2回お花見会が開催されました。土庄町長や各団体の代表の方々、地域のみなさん、みくに園の利用者や職員が集まり、今年も鮮やかに咲いた芝桜を鑑賞しました。



## 故・高田久理事長を偲ぶ会



5月1日に保護者会主催で故・高田久理事長に感謝の意をこめて偲ぶ会を行いました。保護者会会長をはじめとした保護者の方々、遺族、職員が参列し、理事長の功績に改めて偉大さを実感しました。残された私達が理事長の遺志を受け継いでいくことを強く決意しました。

<行事予定>	
5月24日	家庭の日
6月21日	家庭の日
8月19日	済生丸検診
8月20日	済生丸検診



## 編集後記

故・高田久理事長が始めた芝桜みくに公園に3回目の花が咲きました。最初の年は塩害で生育不良でしたが、昨年は無事に花をつけ、今年は更に力強く咲いています。年々たくましくなっていく芝桜を見ていると、昨年末に亡くなった理事長からのエールのように感じます。

私達も年々たくましく成長しているのでしょうか。芝桜を見るたびに、自分に問いかけてとなります。

令和の時代の幕開けです。職員一同心機一転頑張ります。

\*みくにだよりへのご意見をお待ちしています。

E-mail:kgk03317@nifty.com FAX:0879-68-3920